

【北茨城市】 校務D X計画

【現状】

北茨城市では、「G I G Aスクール構想の下での校務D X化チェックリスト」による自己点検の結果、クラウドツールの活用、F A Xでのやり取りの廃止、押印の見直し、校務支援システムへの名簿情報等の不必要な手入力作業の一扫が一部で進んでおらず、校務の効率化には課題が残っている状況である。

このため、「G I G Aスクール構想の下での校務の情報化に関する専門家会議」の提言を踏まえ、これらの課題について解決に向けた検討を促進し、早急に結論を得ることが必要と捉えている。

【課題】

(1) 校務系ネットワークと学習系ネットワークの統合

北茨城市の教育系ネットワークは児童生徒の個人情報等を取り扱う「校務系」と児童生徒及び教職員が授業及び学習目的で利用する「学習系」に分かれている。

文部科学省が推奨する校務系ネットワークと学習系ネットワークの統合等は検討段階に留まっており、その時期も見通せない状況にある。

(2) 校務支援システムのクラウド化

北茨城市の校務支援システムは、閉域網・オンプレミスで運用しているため、職員室以外では校務処理ができない。また、大規模災害等が発生した場合には、業務の継続性を確保することが困難等の課題がある。

(3) F A X・押印の見直し

「G I G Aスクール構想の下での校務D X化チェックリスト」の結果によると、全15校で「校務にF A Xを使用している」、「保護者・外部とのやりとりで押印・署名が必要な書類がある」と回答されている。

F A X、押印及び署名の慣例的な使用により、校務D Xの推進を阻害する原因の一つとなっている。

【取組方針】

現状と課題から北茨城市では、校務D X化に向けて次に掲げる事項を重点的に取り組んでいく。

(1) 校務系ネットワークと学習系ネットワークの統合

校務システムを従来のように閉域網で運用するのではなく、ゼロトラストの考え方に基づきアクセス制御によるセキュリティ対策を十分に講じた上で、校務系ネッ

トワークと学習系ネットワークを統合し、教職員が使用する情報端末の一台化を実現するため必要な調査研究を推進する。

(2) 校務支援システムのクラウド化

校務処理のさらなる効率化とレジリエンス確保等を目的として、オンプレミスでの運用から脱却し、利便性の高い汎用のクラウドツール（コミュニケーションの迅速化及び活性化が実現できるグループウェア、保護者との間で相互連絡が可能なソフトウェア等）と連携したフルクラウド仕様の新たなシステムを導入するため、必要な調査研究を、現行システムの更改時期を期限として推進する。

(3) F A X ・ 押印 ・ 署名の見直しに向けての検討

災害やネットワーク障害等が生じている特殊な環境下において、F A Xでの相互連絡がその他の連絡手段と比べて明らかに事務の効率性が確保される場合を除き、学校、保護者、各種関係機関及び学校と関わりのある事業者等との連絡手段には、F A Xを用いないよう運用方法を見直す。

押印は、法令等により求められているもの等を除いて見直し、署名は法令等により求められているもの等に加え、本人の意思確認を強く求めるものや本人確認を要するものを除いて見直すことで、学校、保護者、各種関係機関及び学校と関わりのある事業者等の事務負担を軽減するため、運用方法を見直す。